

第三號



官許
琵琶湖新聞

定價三錢五厘

明治六年第三月

西垣文庫
文庫10
7374
3



緒言

新聞ノ徳タルヤ大ナリ内知見ヲ闢キ外事業ヲ施シ
 不知不識文明ノ域ニ進ミ開化ノ室ニ入り上下言路
 ヲ通ジ勸懲善惡ヲ判ス故ニ
 官許シテ天下ニ公ニスル所以ナリ庶幾ハ四方ノ君
 子上公裁ヨリ下俚言ニ至ルマデ縷々記載シ吾社ニ
 投入シ玉ハンコトヲ是今日ノ必務ニシテ開明ノ徳ニ
 報ズル所以ナリト爾云

西頭文庫



琵琶湖新聞第三號

○當國元管轄旧藩數十ニ涉リ官地一途ニ有リ乍ラ
 動モスレバ其所以區々ニテ庶民混惑スルコト少ナカ
 ラズ故ニ民間總テ一致セズ郡中隣村ト雖モ敢テ其
 事ヲ隔絶シ互ニ信義ヲ通ゼズ或ハ軒ヲ並ベ畔ヲ連
 ヌトモ意旨均シカラザルハ所謂各管區別ノ旧弊タ
 リ方今國內一致庶民ノ仰ダ所庶民ノ通ズル所又其
 為ス所趣義均シク是則全國一途 王政御國體ノ基
 礎御威徳ノ顯ル、有難キコトナラズヤ云々

右論説

乍恐以書附奉願上候

阪田郡第七區醒井村
百五十番屋敷

江龍清雄

一昨明治五年六月中於元犬上縣廳當郡山東^{モヨリ}寂寄小
學校御用掛被仰付即當村元陣宅別書院私へ讓受
格別ノ大破ニ付修理相加へ學校取設^{トク}々同七月七
日開校仕以來生徒相聚^{アツク}メ讀書並ニ筆算等教授仕
居候同八月未熟^{ヒジメ}ノ私へ教官拜命仕引續キ縣廳出
仕拜命仕彦根表へ引越居候処同九月中一區一校
取設ノ御達有之候趣然ルニ當七區五ヶ村ノ内能

登瀨村多和田村ハ山川相隔^カリ童幼朝暮不便利一
色村枝折村ハ當村真^{マコト}ノ寂^{モヨリ}寄ニ候得共惟三ヶ村ニ
テハ總高千三百石戸數總計三百餘ニテ會計目的
難相立如何ト心配中同十月元犬上縣御廢滋賀縣
合併被^{マシ}仰出候ニ付其後教官助教等ヨリ御規則
伺出候処追而御改正御達可有之候條精々勉勵罷
在候様御指令ニ相成リ引續キ教授罷在當春來生
徒漸ク滋息^{シヨク}仕候得共何分前書ノ次第ニテ會計策
ニ殆^{ホト}ト當惑仕候儀ニ御坐候就テハ困窮^{コンキウ}ノ私自然
好名ノ譏^{ウケ}モ可有之哉ト遠慮罷在候得共此今ニテ

ハ方法難相立残念ノ至リニ奉存候間右私所持ノ
家屋敷別紙繪圖面ノ通り外ニ修覆料トシテ豫備
金百兩今般小學校工寄附仕且不肖ノ私殊ニ生質
柔弱ニテ別段 御國恩ヲ報ジ奉ルベキ儀モ無
之遺憾少ナカラズ候間何卒日々小學校工出頭仕
教者夫レクエ相交リ生徒引立漆心仕度此段奉願
上候左候ハバ其他諸入費ノ儀ハ最寄村々ニテ精
々方法モ相立吳可申哉ニ愚慮仕候儀ニ御坐候右
癡生ノ微志御憐察被成下置首尾能奉蒙御許容候
ハバ難有仕合ニ可奉存候以上

明治六年三月二日

右 江龍清雄

右清雄奉願上候通首尾能御許容被成下置候ハバ
於私共モ難有仕合奉存候以上

右村

副戸長

垣見甚太郎

戸長

山岸源藏

右七區

江龍徳治郎

総戸長

江龍貫治

前書願出候ニ付 縣廳ニ於テ御付紙ニ書面神妙ノ
事ニ付聞届候事但過日第百五十九号布達致シ候規

則ニ照準シ其方法相立區内繪圖面相添其區總戸長ヨリ可差出候事

評者曰江龍清雄ノ憤發實ニ感歎ニ堪ヘズ然ルニ其ノ總戸長村々ヨリハ於于今其方法モ不申出由如何ニ因循スルトモ其區内ノ児童ニ對シ不實意ト可謂其ノ職掌ニ怠ルト可謂ナリ

○青森縣ヨリ管内へ農會社取建ノ告諭ニ曰ク

我 神州ハ東洋ノ表ニ屹立シ土壤豊美人種秀靈照々タル一帝國タルハ固ヨリ言ヲ待タズ 神代ハ遷^{ヒイデ}漠考フ可ラズト雖モ 神武天皇ハ檀原ニ都ヲ置レ

シヨリ今ヲ距ル二千五百三十三年 皇統綿々天壤

ト窮極アルヲナシ然ルニ中世以降綱紀頽弛政權武

門ニ歸セシヨリ凌夷シテ近時ニ至リ殆ド外國ノ輕

侮ヲ免ル、^{マカ}ハザルニ至ル衰弱極レリト云ベシ

泰西各國ノ如キ往時コレヲ目シテ夷ト云蠻ト云シ

モ其教祖始生ノ紀元ヨリ一千八百七十餘年風氣日

ニ開ケ人巧月ニ長シ利用厚生ノ道一モ備ラザル十

ク終ニ東洋ノ各國ヲ蔑視スルニ至ル其盛衰榮辱彼

我相顛倒スルハ何ゾヤ之レ他ナシ其國人勤ムルト

惰ルトニ關カルナリ戊辰以來皇運隆興 聖上政ヲ

親ラシ尋テ三府七十二縣ヲ置セラレ旧来ノ陋習ヲ
 破リ知識ヲ世界ニ求メ大ニ綱紀ヲ恢張シ世道ノ開
 明日ニ新ナリ今ヤ縣廳其旨ヲ體シ新々ニ富家ヲ募
 リテ同心協力農會社ヲ結バシメ管内荒蕪ノ地ニ就
 テ土産ヲ蕃殖シ交易ノ亨利ヲ保護シテ物貨ノ流通
 ヲ便ニシ以テ人生ノ公益ヲ興シ全國富強ノ基ヲ補
 ハントス試ニ見ヨ現今本縣ノ戸數凡九万五千余一
 日新貨十錢ノ利ヲ得レバ一日ノ總計九十五万錢一
 月ニシテ二千八百五十万錢一年ニシテ三億四千二
 百万錢積テ數年ニ至ラバ其利幾何ゾヤ勤レバ則此

利ヲ得惰レバ則此利ヲ失フ之レ勤ルニ盛ンニシテ
 惰ルニ衰フルニアラズヤ且其得ル所ノ利ハ帝ニ其
 家ノ利潤トナルノミナラズ家々ノ利潤ハ一縣ノ繁
 榮トナリ縣々ノ繁榮ハ全國ノ富強トナルナリ臣民
 タル者熟々此理ヲ了得シ 聖上旰食宵衣國事ヲ憂
 ヒ蒼生ヲ恤レシ玉フ有難キ御旨意ヲ體認シ夙ニ起
 キ夜ニ寢ネ積雪家居ノ時ト雖モ懈怠ナク各共ニ勉
 勵シ餘資アル者ハ入社シテ融通ヲ助ケ開墾養蚕牧
 畜樹藝凡テ有益ノ業ヲ起サントスル者ハ其資本ヲ
 社中ニ借リテコレヲ施行シ自修自營相率ヒ相資ケ

テ國家ノ盛昌ヲ賛成スベシ是則上下相待テ國力ヲ更張スル所以ニシテ今日縣廳ノ急務人民ノ責任ナリ汝衆庶夫レコレヲ勉メヨ

野洲郡第七區安治村

小平治次男

野洲政次郎

其方儀去申五月中村方無沙汰ニ脱出致シ去ル十三日先非ヲ悔ミ歸住ノ儀親族ノ者ヲ以テ戸長工侘出候得共日數ヲ經候始末不束ニ付贖罪金六兩官納申付候事

明治六年一月十八日 滋賀縣令松田道之

西京東新橋小堀西入町

若狹屋庄兵衛三男

松井捨吉

当二十四戈

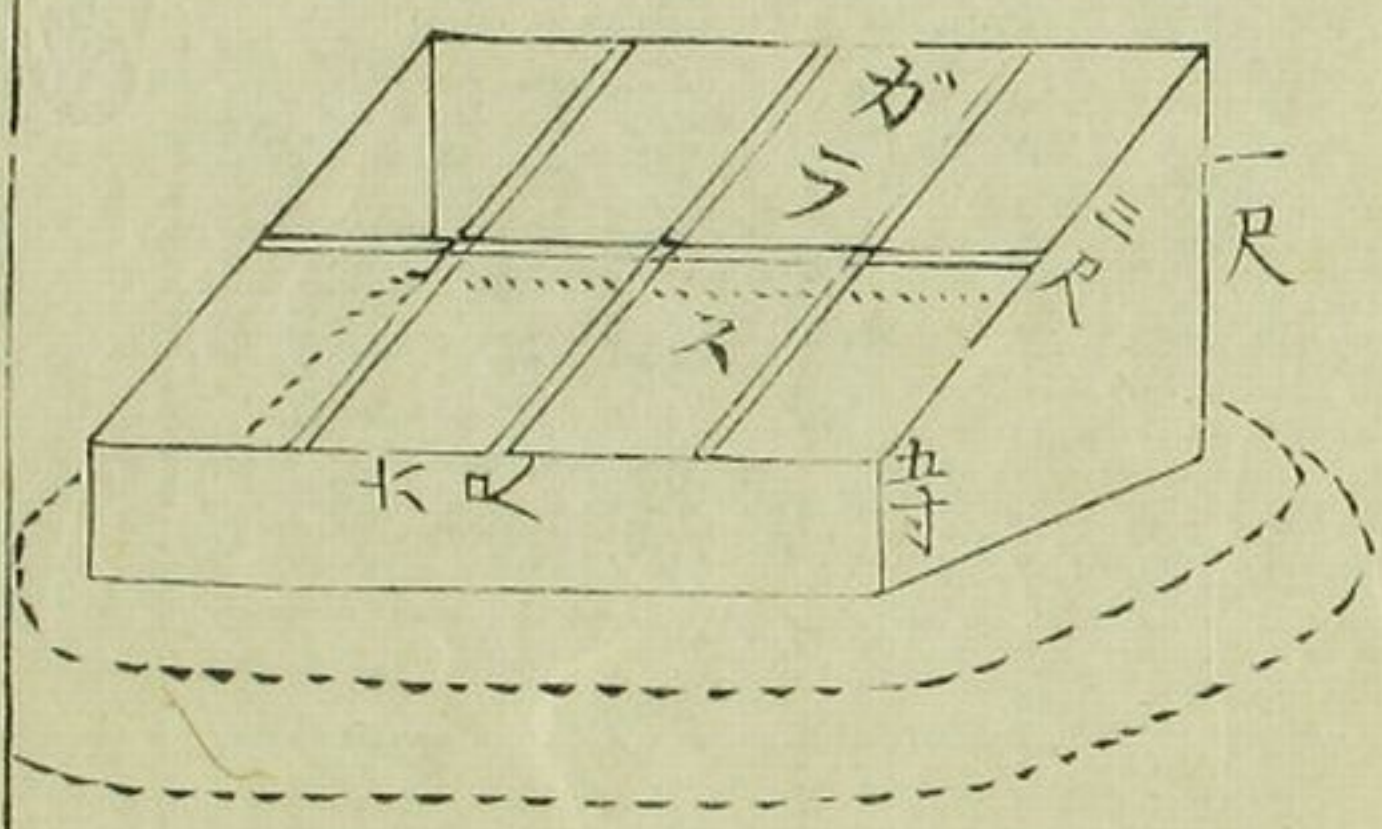
其方儀去已年三月中御親兵ニ御採用伏水練兵場工擧込相成候節下賤ノ身分ニ付同隊隅田辨吉并同人父出雲相頼辨吉弟分ニ致シ名籍差出度候ハゞ其筋工相届ケ轉籍之上可差出之処無其儀鹿略ニ名籍差出候始末不束ニ付贖罪金三分官納申付京都府工引渡候事

明治六年一月廿二日 滋賀縣令松田道之

○遊女飯盛女飯賣女トモ解放ノ御沙汰相成市中ハ

勿論街道筋駅々夫々身元復籍ニナリ古来ヨリ賣女
 ナキニ非ザレドモ中古已来甚ダシク田舎マデモ擴
 マリ弊害^{スナチ}シトセズ人生レテヨリ敢テ毀傷セザル
 ハ孝ノ始メナリト然ルニ之ガ為ニ一代ノ身ヲ損シ
 竟ニ破家ニ及ブモアリ又往々ニ異變ヲ生ジ檢使調
 査等アルハ多クハ是ヨリ釀^{カモ}ス弊風ノ至リト云ベシ
 御一新後ノ一大闕典ナリシヲ改メラレシハ大方ノ
 歡^{ヨロコ}ビ其父母タル云ニ及バズ市村近傍マデノ感悅又
 一家和合ノ基ヒナリ妻子マデモノ大幸 御美政尊
 仰セズンバ有ラズトナリ

○新聞雜誌ニ云我國從來早作ノ器械アリト雖モ未
 ダ^タ精エナラズ此頃津田某經驗スル所ノ西洋器械ハ
 嚴寒ノ時モ能ク發生ノ氣ヲ貯^{タケ}ヘ諸種ノ野菜ヲ早作
 スルニ最モ至便ノ良器ナリ故ニ此ニ略図シ以テ農
 家ノ試験ニ供セリ



此寸法ヲ例トシ大
 小適宜ナリ硝子ノ
 蓋ハ開閉自在ナル
 ヤウ致シ置クベシ
 馬糞^ウソ七寸程ヲ
 積ミ器^ニ中ニ置キ
 キ土^ヲ其^中ニ入レ
 種^ヲ蒔^キテ^ハ夜^ハ蓋^シ
 ニテ^ハ其^上ヲ^蓋シ
 ハ時々水ヲ灑グベ

○東京新聞ニ云一月廿八日ノ事ナリシガ筋違御門
 内大道へ書籍ヲ並べ商賣スル者アリ右見世へ兵隊
 ノ者来リ春画ハナキヤト尋ケレハ有之由ニテ五六
 冊ヲ出シケレバ其内三冊ヲ買ヒテ去レリ稍アリテ
 邏卒来リ其事ヲ糾問ノ上屯所へ引連レ禁令ヲ犯シ
 タル罪ヲ以テ罰金壹圓ヲ取立事濟ニナリ帰店ノ上
 長大息シテ曰ク天ナル哉命ナル哉世ニ春画ヲ賣ル
 者吾ノミナラズ之ヲ版行スル者アリ賣者ハ罪ヲ得
 テ買者ハ罪ナク春画嚴禁ナラバ其版木ヲ毀テ其画
 本ヲ残ラズ燒捨ナバ斯ル災害ハ之無キモノヲ政府

ニテ版木ト画本燒捨サルハ吾輩ヲシテ陷穽ニ入ラ
 レムル策ナリト獨言ス嗚呼愚ナル賣画翁ヤコレ公
 法ヲ守ラズ自ラ為セル禍ナリ何ゾ人ヲ咎ルノ理ア
 ラン然レモ古語ニ鳥ノ將ニ死ナントスル其聲哀シ
 ク人ノ將ニ死ナントスル其言能シト云ヘリ春画ハ
 人心ヲ蕩溺シ風俗ヲ乱ル濫肆ノ者ナレバ之ヲ禁ゼ
 ントセバ宜ク翁ノ言ニ從ヒ板木ト画帖ヲ一切燒捨
 ルノ令アラバ向後此事ニ關シ身ヲ誤ルノ憂ヒナカ
 ラン

○千八百七十二年二月十日ヘラルト新聞ニ云英國

ロンドンニ於テハ前一周間ニランベスパースト云
亭院ニ於テ僧官等會合ヲ為シタルガ此議事ノ中ニ
日本政府ノクリスタン宗ヲ制禁スルヲ論ジタリ
之ニ因テ第一法官某ハ日本公使ニ面會シテ此事ヲ
議セントテ公使ノ旅館ニ至リ同職一統ノ名ヲ以テ
先ヅ兩國親睦ノ喜ビヲ述べ且ツ兩國ノ交際間ニ於
テ今一層善良ノ方法ヲ成サンヲ望メリ續テクリ
スタン宗ノ事務ヲ扱フ社中統領ヲ始メトシテ數人
茲ニ来リ大ニ論ジテ此宗旨ヲ日本國內ニ普ク開カ
ンヲ欲セリ因テ岩倉公ハ手ヅカラ此ノ答文ヲ渡

サレタリ其文ニ曰ク我等貴社ノ尊來ヲ得テ何ノ喜
カ之ニ加シ且日本帝國ノ為メ大利ヲ興サントノ尊
意我等ニ於テ大ニ之ヲ好ス而シテ又汝ノ諷示スル
日本國ノクリスタン宗制禁ノ事ニ就テ我等答辭ナ
カルベカラズ則チ公明ニ汝ニ告ン日本國ニ於テ從
來クリスタン宗ヲ禁ズルノ國制ハ大ニ不正ナレバ
自今日日本政府ニ於テハ最良ノクリスタン宗ヲ用ヒ
ンヲ望ム而シテ之ヲ民間ニ開キ並ニ文明ヲ進歩
セシメント欲スルナリ汝如シ此ノ真證ヲ得ンヲ
要セバ我が本國及ビ外國ニ於テ方今我等が為ス所

ノ行ヒヲ以テ之ヲ察知スベシ

○農ハ國ノ本ナリ 皇國古ヘヨリ爰ニ注意アルヲ
 言ヲ俟タズ方今遊手ヲ禁シ全四民ニ帰セラレ國益
 富强ヲ弥増シ以テ民利ヲ立ルヲ要ス故ニ開墾競ヒ
 起リ諸物産ヲ蕃殖セントス人々勉強セザルヲ得ズ
 而シテ皆其元農ニアリ其所以ハ今桑茶蚕子ヲ以テ
 最一ノ國産トシ或ハ穀産或ハ綿布其他諸種ト雖モ
 農ニ依ラザルハナシ然バ農ニ強励セズンバ何ヲ以
 テ産ヲ得ルヲ得ン哉是レ國利民益ノ基礎ト云可
 シ就中商ハ物産ヲ販ギ利潤ヲ得ルト雖モ自國ノ小

利ヲ俟タズ外國貿易ノ大利ヲ立ンヲ要トシ以テ農
 ニ協力ス可キヲナリ工ハ奇工ヲ巧フシ新規發明ノ
 器械ヲ備ヘ以テ國用ノ辨ヲ要トスルニ有リ而シテ
 其源タル農事ヲ助クルノ法功ヲ立以テ物産富殖ヲ
 求ムルニ有リ農料ノ器械我國未ダ其新製ヲ發明ス
 ルヲ知ラズ既ニ勸農ノ寮ヲ立サセラル、ト聞ク此
 時ニ當テ開墾ニ汽車等ノ器械ヲ以シ從前鋤鍬ヲ以
 スル迂遠ノ如キヲ助ケ耨ヲ摺ルニ人カヲ費ス又開
 墾ニハ力耕ノ勞容易カラズ此等皆工巧ヲ盡サバ
 所以ナリ故ニ商タル者ハ販賣ニ利ヲ立ル以テ農産

ノ器械ヲ西國ヨリ取入レ大ニ戮カシ工ハ器械ノ發
 明ヲ以テ戮カシ俱ニ農支ヲ補助スルヲ為サバ目
 前國産ノ富殖スルヲ必セリ此レ今日ノ急務ナリ共
 ニ以テ國恩ヲ報ゼンヲ要スベシ故ニ今貴社ニ托
 レテ素志ヲ述テ人々立志アランヲ冀フ 右投書

○茶 城州江州 上壹貫目二百五十匁 中百八十匁
 下四十八匁 伊勢上八百八十匁 中百二十匁 下三十匁
 駿遠 上九百九十匁 中百三十匁 下三十五匁
 下總 極上六百六十匁 中百匁 並二十五匁

琵琶湖新聞第三號終

伏テ四方ノ君子ニ敬白ス既ニ 官許ヲ蒙リ局ヲ開キ新聞紙ノ徳ア
 ルヲ遐邑僻陬マデモ擴メ頑ナルヲ解キ僻ナルヲ改メ遠近日新ノ景
 況ヲ告ゲ俱ニ開化文明ノ域ニ進マンヲヲ希望ス雖然耳目ノ届カザル
 少シトセズ願クハ同好ニ限ラス小大トナク其所々里巷ノ瑣事ニ至ル
 マデ事實書綴リ本局又ハ所々ノ取次所へ出シ玉へ次第ニ刊行出版ス
 ベシ但遠路ハ殊ニ報知ヲ得ンヲヲ希フ其出シ玉フ書付ニハ何レモ其
 住所姓名ヲ必ズ載セ玉へ無名ノ書ハ敢テ採入セズ無根ノ浮言造説ア
 ルヲ恐ル

總テ望ニヨツテ出版スル事件大略

- 諸會社ニテ取扱ノ品々出入數量 ○物價ノ高低
- 新規發明ノ器械 ○諸開店ノ披露
- 田園山林家邸舟車等ノ賣買貸借 ○失物尋物

○觀セ物集會等ノ披露 ○諸藝私塾開業ノ披露

○諸產物家具食品藥劑等一切ノ賣買 ○金銀貸借

右ノ外總テ世間ニ弘メ人ニ知ラシメントノ事情ハ何レモ一行廿二字
價三錢ニテ引受出版致スベシ

新聞紙定價一號三錢五厘 御望ノ向ハ前金ニテ二十冊ニ付二割引四
十冊ニ付三割引出版次第郵便ニテ通達致スベク但郵便賃錢御規則ノ
薄料ニテ通達相成ベク様御准允願ヒ奉リ候

近江國大津船頭町

本局

琵琶湖新聞會社

取次所

